

## 入選

### 小さな親切とたくさんの笑顔

千葉県 共和小学校 4年 小川 陽葵

わたしは、お母さんとお兄ちゃんと妹と四人でえい画を見に行きました。楽しみでウキウキしながら席にすわって、えい画が始まるのを待っていました。えい画が始まってすぐ、赤ちゃんの泣き声が聞こえてきました。赤ちゃんの声はどんどん大きくなって、えい画館の中いっぱいにひびいています。

わたしがキョロキョロすると、わたしたちのとなりの席で、大泣きしている赤ちゃんをだっこしながら、必死であやしているお父さんが見えました。お父さんの顔はとても困っているように見えました。

そのとき、わたしのお母さんが、困った顔のお父さんに小さな声で話しかけました。

「もしよかったら、お姉ちゃんのごことはみているので、外で赤ちゃんを落ち着かせてきて大丈夫ですよ。えい画が終わったら、お父さんのところまで連れていくし、家の子たちのいっしょだったら泣かずに見ていられるんじゃないかなと思うので。」

よく見ると、そのお父さんのとなりに、3さいくらいの女の子がすわっていました。

「パパがいなくても、おばちゃんのところのお姉ちゃんたちとえい画を見ていられるよね。」

お母さんが女の子に聞くと、その女の子はうなずきました。お父さんは、お母さんに頭を下げてでていきましたが、女の子はうちのお母さんと手をつないだまま、静かに最後までえい画を見ました。

えい画が終わって外に出ると、静かにねている赤ちゃんとそのお父さんが待っていました。お父さんは笑顔で、

「助かりました。本当にありがとうございました。」

と何回もお母さんにおじぎをしていました。そのあと、なぜかお母さんも笑顔だったので、なぜ笑っているのか聞きました。すると、お母さんに、

「ありがとうって言葉は、言った人も言われた人も幸せになれる言葉だよ。ママは、ひまりに、ありがとうと言える子に育ててほしいな。」

と言われました。

お母さんは、わたしたちによく言います。

「ありがとうと、ごめんなさいがきちんとと言える人に育ててね。」

わたしは、お母さんが言っていることの意味を考えたことがなかったけれど、そのときに少しわかったような気がしました。あのお父さんのありがとうの言葉で、みんながうれしい気持ちになったし、友達とけんかしたときに、すぐにごめんなさいが言えると、その場でなか直りができて、またみんなが笑顔で遊ぶことができます。きっと、お母さんは、みんなが笑っていられるように、楽しい気持ちでいられるように考えて、わたしに教えてくれたと思います。

わたしは、みんなの笑顔が大好きです。お母さんみたいに、みんなを笑顔にしてあげられる人にわたしもなりたいです。